

2009 SUPER GT 第2戦 鈴鹿

◆◆◆第2戦鈴鹿、苦しい展開の中、8位入賞に成功◆◆◆

■2009年4月16～17日

■三重県・鈴鹿サーキット

■No.24 HIS ADVAN KONDO GT-R 予選：12位 / 決勝：8

◆4月16日 予選

【セットアップを続けるも、予選は12番手にとどまる】

劇的な開幕戦優勝を果たしてからおよそ1ヶ月。

4月16～17日にはSUPER GT第2戦が三重県・鈴鹿サーキットで開催を迎えた。

No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rに搭載されたハンディウエイト40kgは、優勝の証である反面、接近戦を戦うクルマにとって、足かせになることも事実。

オフシーズンの間、サーキットの施設を全面リニューアルした鈴鹿は、併せてコース前半の区間の舗装も行っている。

今シーズンは、事前テストが行われず、金曜日の練習走行もないため、まさにぶっつけ本番の戦いが待っているというわけだ。

土曜は朝8時25分から公式練習がスタート。

GT300クラスとの混走時間が1時間30分設けられた。

まずは新しくなった路面をチェックするため、コースインしたのはJ・P・デ・オリベイラ選手。

タイヤとのマッチングを試し、荒がその後を引き継いだ。

練習走行で得たフィーリングを荒はエンジニアやヨコハマタイヤのスタッフにフィードバック。

予選に向けて、さらに微調整を加えることとなった。

予選は午前11時20分にスタート。

なお、サーキットの柿落としとなった今回のイベントは「2 & 4レース」であり、SUPER GTと全日本ロードレースのJSB1000が一堂に会するとあって、

多くの観客がサーキットに足を運ぶ盛り上がりを見せた。

しかしながら、そのぶんレーススケジュールがかなりタイトなものになっており、各チームとも、いつも以上に慌しい時間の中でのプランニングに迫られた。

開始早々、GT300車両が飛び出し、赤旗中断。

No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rがコースインしたのは、セッション再開後だっ

た。

今回はまず荒がアタックを開始。先に予選通過基準タイムをクリアすることで、以後、タイミングよくニュータイヤを投入してタイムアタックができると読んだのだ。

荒は公式練習で装着したユーズドタイヤのままタイムをクリア。

ピットインすると、今度はオリベ이라選手がクルマのセッティングを確認するため、

そのままのタイヤでコースイン。後にピットインすると、さらに別のユーズドタイヤで出走。

10番手につけ、あとは、ニュータイヤでのアタックに照準を合わせ、その時を待った。

GT500クラス専有走行の時間に入り、満を持してアタックを行ったオリベ이라選手。

自己ベストタイムとなる1'55.129のタイムをマークしたが、この後にタイムアップしたライバル達が多く、結果は12番手。残念ながらスーパーラップ進出を果たすことはできなかった。

◇ドライバーコメント◇

前回の優勝でクルマには40kgのウェイトが積まれています、重くてどうにもならない、という感じはまったくありません。

しかしながら、コース前半の路面が変わっているので、

そのことを考慮しながら、クルマのセットアップやタイヤ選びを行いました。

残念ながらスーパーラップには残れませんでした、

タイヤのチェックを行い、色んなことをスタッフにフィードバックし、

ウェイトに影響されにくいクルマ作りを進めています。

決勝に向けて、これまでの中から手ごたえある部分を煮詰めていって、

レースできちんと攻めることができるクルマに仕上げていきたいと思います。

◇監督コメント◇

今回のウェイトは40kgありましたが、僕たちは上位8台に残って

スーパーラップに出ることを狙っていました。それができず残念です。

レースでは、どんどん攻めていく展開をしていきたいですね。

決勝用のセットアップも見えているので、レースではいい戦いができると思います。

◆4月19日 決勝

【速さを存分に発揮できず、耐えるレースで8位入賞】

決勝日の日曜日にも初夏を思わせるほどの爽やかな天気にも恵まれた鈴鹿。
午前8時50分から300分間のフリー走行が行われた。
チームでは引き続き、クルマのセットアップを進め、
決勝でコンスタントにいいラップタイムを刻めるよう、微調整を続けた。

迎えた午後2時からの決勝レース。
気温23度、路面温度38度のコンディションの中、
まずはオリベ이라選手がNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rに乗り込む。

12位からスタートを切り、早速前方の車両を追撃するオリベ이라選手。
シケインの飛び込みでも逆転劇を演じ、メインストレートでのサイド・バイ・サイド
も制し、
しばし9位をキープした。だが、緊迫する前後車両との戦いはよりハードなものとなり、
7周目の130Rで逆転を許したオリベ이라選手は、以後、11番手で周回を続けた。

チームでは当初、いつものようにライバル達がピットインし始めるのを尻目に周回し、
遅めのピットインする予定だったが、鈴鹿の新しい路面は、チームにそのチャンス
をくれなかった。
攻撃性が高くなった路面によって、クルマはオーバーステアに悩まされ、
23周目終了で、オリベ이라選手がピットに戻ることにになったのだ。
さらに、序盤の接触で傷めた左前後のフェンダーの修復をオフィシャルから指摘され、
ピットでの作業時間が予定していたものよりも長くなってしまった。

今回は52週のレースであるため、オリベ이라選手を上回る周回数を担当することになった荒。
持ちのよいタイヤを装着し、後半戦の戦いを開始する。
安定したタイムを刻み続けるNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rだが、
タイヤを酷使しない走りに徹するため、どうしてもライバル達とのタイム差が発生する。
結果として、ポジションキープの走りとなってしまった。

終盤、レースはシケインでの多重クラッシュが発生。
セーフティカーが出動し、隊列をメインストレート上で整えて再スタートするとい

う形がとられた。

この時点でNo.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rは9番手に浮上。
ファイナルラップだけのレース再開という可能性もあったが、
結局、セーフティカー先導のままレースはフィニッシュする。

レース後、上位車両1台がペナルティによるタイム加算を受けたため、
No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rは8位に浮上。
3ポイントを計上し、ランキング2位につけている。

◇ドライバーコメント◇

今回は、周りのクルマと比較し、ラップタイムの差が大きかったように思います。
40kgのウェイトによって、クルマの動きが悪いとか、乗りにくいという状態ではな
かったのですが、

露呈した問題点をしっかりと踏まえて、またタイヤ作りを進めていかないといけま
せんね。

ウェイトを積んでいても、キチンとタイムが出せるようなクルマ作りを目指しま
す。

終盤、安定したタイムを刻むことができましたし、8位でレースを終えて
ポイントを獲得できたのは、悪くない結果だと思います。

◇監督コメント◇

課題が残るレースになりました。思いのほか、前半のクルマはオーバーステアがき
つく、

JPでも苦戦したようです。ピットインも予定よりずいぶんと早まりました。

色んな意味で、チームの作戦が裏目に出たわけですが、苦しいレースながら
ポイントが獲得できてよかったと思います。富士ではさらに頑張りたいですね。